

特集

放課後子ども教室

地域で育む豊かな心

「キーン、コーン、カーン、コーン」

授業の終わりを知らせるチャイムが校内に鳴り響く。

ここは下総みどり学園の1室。

「そろそろ来るころかな」と話をする大人たち。

明るく元気な話し声と足音が次第に近くなり、

「こんにちは」のあいさつとともに

大勢の子どもが部屋に押し寄せます。

「二列に並んで受け付けをして。」

それが済んだらグループごとに集まって」と

子どもたちを受付に並ばせる大人たち。

数分後、受け付けを終えて、列になって座った子どもたちの前で、

「みんな集まった？それでは始めるね。」

今日はしゃぼん玉遊びをするよ」

コーディネーターの掛け声とともに放課後子ども教室が始まりました。



放課後子ども教室とは？

放課後子ども教室は、地域が主体となり、放課後や週末などに小学校の空き教室などを活用し、子どもたちが学習やスポーツなどに取り組む事業です。

放課後子ども教室が全国で始まった平成19年度当初は851市町村6,201カ所でしたが、平成25年度には1,090市町村10,376カ所にまで増加しています。

成田市の現状は？

県内54市町村のうち、成田市を含めた27市町村で放課後子ども教室は実施されています。活動は小学校区単位で行われ、市内では25小学校区のうち、豊住小学校・遠山小学校・美郷台小学校・八生小学校・下総みどり学園の5つの小学校区で行われています。

放課後子ども教室の現状

全国的に行われている「放課後子ども教室」。その運営方法などは自治体によって異なります。それでは、まず市の放課後子ども教室の概要を見てみましょう。

求められる

安全安心な場所

学校から帰ると、近くの空き地や小川、お寺や神社の境内などで遊ぶのが普通な時代がありました。今の子どもたちには外で遊ぶ場所が少なくなり、共働きの増加や少子化・核家族化の進展などにより、一緒に外で遊ぶ姿を見掛けることが少なくなりました。こんな時代だからこそ、子どもたちには思い切り体を動かしたり自由に遊んだりする、安全安心な居場所が必要と云えるのではないのでしょうか。

居場所づくりの歴史

子どもの居場所づくりの一つとして、放課後児童クラブ(児童ホーム)があります。市では、平成10年に児童ホームを開設し、共働き世帯などの小学生を放課後に預かり、家庭に代わる生活の場を確保しています。

そして、平成20年度から新たに子どもの居場所づくりとして始まったのが放課後子ども教室です。放課後子ども教室は、子どもたちに関わる重大事件の続発や、家庭・地域の教育力の低下などの課題に対応し、学校だけではできないさまざまな体験活動を通して心豊かでたくましい子どもを社会全体で育むために始まりました。

市では平成19年度に「放課後子ども教室」成田市運営委員会を設置し、放課後子ども教室の方向性や対象小学校について協議し、放課後子ども教室の設置に向けての準備を始めました。

同委員会での協議の結果、最初に放課後子ども教室を設置する学校は、児童ホームが未設置で、保護者へのアンケート調査で要望の多かった豊住小学校と旧中郷小学校に決まり、平成20年度に開始されました。

なお、国では「放課後子ども教室」と「児童ホーム」が一体的に実施されるよう、新たに「放課後子ども総合プラザ」をことし7月に策定しています。

放課後子ども教室 Q&A

Q1 誰でも参加できますか？

A1 対象は放課後子ども教室が実施されている小学校区の児童です。また、参加には事前に登録が必要です。年度の途中からでも参加できます。

Q2 お金は掛かりますか？

A2 保険に加入するため年間500円の会費が掛かります。また、材料費などが実費で掛かる場合があります。

Q3 いつ開催していますか？

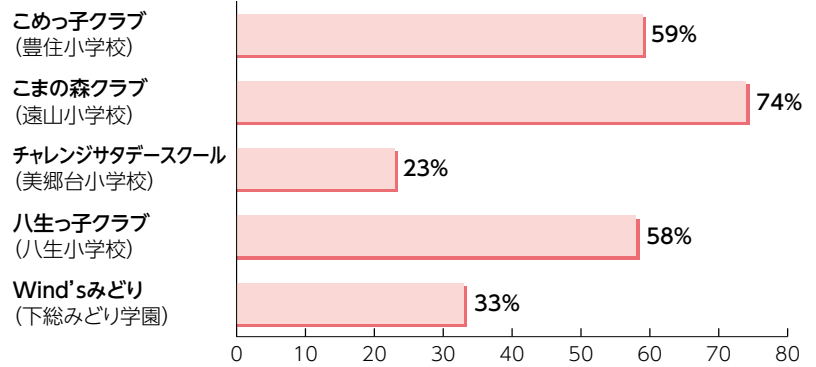
A3 開催日は地区によって異なります。時間は放課後から午後4時30分(冬期は午後4時)までです。





- ①楽しい活動に笑顔あふれる
- ②長いしゃぼん玉ができたよ
- ③全ての的を射抜けるか
- ④しゃぼん玉液の配合は慎重に
- ⑤校庭で元気いっぱいドッジボール

学校区別の登録数の割合



教室を運営するスタッフ

放課後子ども教室を運営するスタッフは、地域住民や保護者、大学生が務めます。そして、コーディネーター、教育活動推進員、教育活動サポーターの役割に分かれて活動を支えます。

コーディネーター

学校や関係者との連絡・調整、活動プログラムの企画・提案、ボランティアの人材発掘などをします。また、地域住民へ参加の呼び掛けなども行う全体の調整役です。

教育活動推進員

子どもたちに遊びや運動、工作などを教える指導者です。

教育活動サポーター

安全に遊んだり、体験したりすること

とができるように活動中の子どもたちを見守ります。

子どもも大人も元気に

子どもたちは、教室での活動を通して、地域でも普段接することが少ない大人たちと触れ合い、一方で大人たちは自分の知識や経験を伝えることができます。また、学年の異なる子どもたちが一緒に遊んだり学んだりする、異学年交流の場にもなっています。

教室に参加した子どもたちが、学校でも学年を超えて声を掛け合い、地域の人たちに会うと自分からあいさつをするなど、さまざまな変化が表れています。取材に訪れた際は、多くの子どもたちから気さくに話し掛けられたことがとても印象的でした。

市の放課後子ども教室実施状況

平成26年10月1日現在

| 名称 | 開催日程 (夏休みなどを除く) | 対象 | 登録数 (対象児童数) | 主な活動場所 | スタッフ登録数 |
|------------------------|--------------------|-------|----------------|---------|---------|
| こめっ子クラブ (豊住小学校) | 木曜日 | 全校児童 | 34人 (58人) | 豊住小学校 | 24人 |
| こまの森クラブ (遠山小学校) | 木曜日 | 全校児童 | 45人 (61人) | 遠山小学校 | 16人 |
| チャレンジサタデースクール (美郷台小学校) | 第3土曜日 | 4年生 | 14人 (60人) | 美郷台地区会館 | 16人 |
| 八生っ子クラブ (八生小学校) | 隔週木曜日 | 全校児童 | 45人 (78人) | 八生小学校 | 18人 |
| Wind'sみどり (下総みどり学園) | 隔週月曜日 | 1~4年生 | 56人 (170人) | 下総みどり学園 | 6人 |

心豊かな人間性を育む

こめっ子クラブ
豊住小学校

放課後子ども教室では、どのような活動が行われているのでしょうか。10月16日、市内で最初に設置された放課後子ども教室の一つ「こめっ子クラブ」(豊住小学校)にお邪魔しました。今回の内容は「ひょうたんの絵付け」です。

きれいなひょうたんが出来たよ

こめっ子クラブに密着

午後2時—スタッフの集合

まずは職員室へ行き、本日のスタッフの紹介をします。スタッフは毎回同じとは限らないので、不審者ではないことを明らかにして、学校の先生たちと一緒にスタッフを覚えてもらうためです。その後、準備です。筆や絵の具をグループごとにそろえ、ひょうたんを裝飾するひもを切り分けます。

午後2時40分—子どもたちの集合

授業が終わった子どもたちが集合場所の図工室に集まり始めます。受け付けが済むと、子どもたちは宿題に取り掛かります。少しでも早く終わらせようと、みんな黙々と取り組みます。

午後3時—絵付けスタート

コーディネーターの飯岡さんが講師を紹介します。本日の講師は四宮達雄さん。四宮さんは豊住地区に住み、市の絵画コンクールなどで審査をしたり、ほかの放課後子ども教室でも絵手紙などの指導をしたりしています。

「ひょうたんは春に種をまき、夏に実を収穫し、水に漬けて中身を腐らせて乾燥させるとできるんだよ」と四宮さん。学ぶことは絵付けだけではなくありません。その後、筆と絵の具を使い、絵付けの開始です。「色を塗って乾かし、また色を塗る。この作業を数回繰

り返すんだよ」と、四宮さんからきれいに塗るコツが。スタッフは子どもたち一人一人ができていくか確認し、遅れている子どもにはスタッフが付きまします。さまざまな色の絵の具を使い、しま模様や雪の結晶などが描かれた個性あふれるひょうたんが次々に出来上がりました。

最後は、筆やパレットを洗い、四宮さんにお礼のあいさつをします。

午後4時30分—解散

保護者が迎えに来た子どもから帰ります。子どもが手にするひょうたんを見て「かわいくできたね。家のどこに飾ろうか」と話す微笑ましい親子の姿。全員を送り出した後、スタッフは本日の反省や、次回の準備について話し合い、ようやく解散しました。

こうした活動が安心して過ごせる居場所を確保するだけではなく、体験して得た知識や、さまざまな大人との関わり合いを通して子どもたちが心豊かな人間性を育むことが期待されます。

26年度の主な活動内容

順大生と遊ぶ、グラウンドゴルフ、しゃぼん玉で遊ぶ、おばあちゃんと遊ぶ、絵手紙・外国の話「韓国」、おやつ作り、ひょうたんの絵付け、ハロウィンパーティーの衣装作り、ハロウィンパーティー

こめっ子クラブ(豊住小学校)コーディネーター

飯岡 美紀さん



放 課後子ども教室の開設は、市としても初めての取り組みだったので、手探り状態でのスタートでした。「豊住地区は、田んぼに囲まれた地域だから教室の名前は『こめっ子クラブ』にしよう!」と名前を付けるところから、教室の看板作り、プログラム作り、講師の募集など、準備することはたくさんありましたが、スタッフみんながアイデアを出し合いながら取り組んできました。

さまざまな活動をする中で、子どもたちの笑顔だけでなく、協力してくれる地域の人の笑顔にもたくさん出会い、豊住の良さをあらためて発見しています。これからも地域とのつながりを大切にして地域のみならず子どもたちを育てていくという気持ちで、豊住ならではの活動を楽しみたいと思います。

Interview

地域の良さを再発見

佐藤さん親子

和美さん

活動に感謝

子 どもがいつも楽しそうに話してくれます。また、学年が上の子どもが下の子どもの面倒を見て一緒に遊ぶという活動は、とても素晴らしいと思います。

豊住地区は、少子化の影響で近所に子どもが少なく、友達の家までの距離が離れています。そのため、保護者は子どもたちを公園などの遊び場に車で連れて行き、遊ばせている状況です。

放課後にその場で遊べる日が週に1回でもあることは、親にとってとてもありがたいです。



真衣さん(2年生)

放課後が楽しみ

順 天堂大学のお兄さんやお姉さんと一緒に遊ぶことが楽しいです。鬼ごっこのときはお兄さんやお姉さんが鬼役になります。足が速いので、捕まらないように一生懸命走って逃げます。

また、1年間に1回しかないハロウィーンパーティーも楽しみの一つです。前の週に自分たちで作った衣装を着て、学校の近くにある商店や家に行きます。そして「トリック・オア・トリート!(お菓子をくれなきゃいたずらするぞ!）」と言って、チョコやクッキー、ドーナツなどのお菓子をもらいます。

Interview

午後2時23分

スタッフの打ち合わせにも熱が入る



午後2時49分

授業を終えた子どもたちが続々と集まる



午後2時57分

宿題の時間に子どもたちからの質問が



午後3時42分

講師からの指導に真剣なまなざしの子どもたち



こめっ子クラブが文部科学大臣賞を受賞

こめっ子クラブは、多くの地域住民がボランティアとして運営に関わっていること、学期ごとにアンケートをとって子どもや保護者の声を運営に生かしていることなど、地域・家庭・学校の連携がとれています。

また、活動予定の内容などが書かれた便りを児童ホームにも配り、事前に登録さえすれば児童ホームを利用している子どももいつでも参加できるように工夫しています。

このようなことが評価され、平成25年度に文部科学大臣から表彰を受けました。

こまの森クラブ 遠山小学校



①



③



②

- ①みんな個性豊かな作品が出来たね(生け花)
- ②走りの姿勢を意識して(走り方教室)
- ③高く高く飛んで行け(空飛ぶ夢ヒコーキ作り)



平岡 優弥さん(4年生)

走り方教室では、遠山小の出身で、インターハイの400メートル走で優勝したことがある寺田コーチに足が速くなることを教えてもらいました。数日後の運動会で教えてもらったことを意識したら、全校リレーで赤組を抜かすことができました。

26年度の主な活動内容
工作、ドッジボール、生け花、空飛ぶ夢ヒコーキ作り、水泳教室、走り方教室、フィルムロケット作り、ニュースポーツ

ほかの4校の放課後子ども教室の様子はどうでしょう。子どもたちは、生き生きと目を輝かせて体験活動に取り組んでいます。

チャレンジサタデースクール 美郷台小学校



田中 孝賢さん(4年生)

26年度の主な活動内容
絵手紙教室、フラワーアレンジメント、すず虫教室、茶道教室、空飛ぶ夢ヒコーキ作り、体育館で遊ぼう

参加してみて、みんなで遊べるところが楽しいです。イヌワシの形をした紙飛行機を作ったときは、みんなで飛ばし合っただけ楽しかったです。放課後子ども教室で作ったものは家でも遊んだり、家族に作り方を教えてあげたりします。



①



③



②

- ①絵手紙を持って講師の四宮さんと記念に1枚(絵手紙教室)
- ②講師から上達のアドバイスが(絵手紙教室)
- ③ここはどうやって作るの(空飛ぶ夢ヒコーキ作り)



吉野 凜さん(5年生)

26年度の主な活動内容

ブーメランを飛ばそう、スポーツ吹矢、生け花教室、ゲームをやってみよう、サツマイモ掘り、土器探し、ゲームを楽しもう、おにぎりを作ろう

「ことしから放課後子ども教室が始まりました。いろいろな遊びができて楽しいです。ゲームをやってみよう」でユニカールをしたことが特に楽しかったです。最初はつまくストーンを投げられなかったけど、だんだん思うように投げられるようになりました。



- ①八生っ子クラブによるこそ
- ②はがきで作ったブーメランの飛び具合は(ブーメランを飛ばそう)
- ③正確にストーンを投げよう(ゲームをやってみよう)

八生っ子クラブ
八生小学校

活動内容を見てみよう!



- ①校庭にしゃぼん玉が飛び交う(しゃぼん玉遊び)
- ②こんなに伸びるよ(スライム作り)
- ③力いっぱい投球(ドッジボール)



根本 あおいさん(3年生)

26年度の主な活動内容

しゃぼん玉遊び、スライム作り、タグ取り鬼ごっこ、ドッジボール、校庭遊び、空飛ぶ夢ヒコーキ作り

スライム作りが楽しかったです。ゼリーみたいになるようにしてしまいました。下総みどり学園はことし4月に4校が統合して誕生しました。放課後子ども教室を通して、ほかの学校に通っていた子や、学年の違う子とますます友達になれて良かったです。

Wind's みどり
下総みどり学園

地域で子どもを育てる

「地域の子どもは地域で育てる」の合言葉の下、地域が主体となつてさまざまな人が関わり合い、放課後子ども教室が運営されています。

放課後子ども教室に 欠かせない地域の力

放課後子ども教室の運営を続けていくには、地域全体で子どもたちを支えていく必要があります。

活動の内容は、工作やおやつ作りといった体験教室、鬼ごっこやドッジボールなどの運動、宿題などの学習活動、自由に過ごすフリータイムなど、さまざまです。

子どもたちを飽きさせずに、内容の充実を図るには、地域の人たちの協力が欠かせません。

公民館のグラウンドゴルフサークルの人と一緒に活動したり、絵手紙の描き方を教えてもらったり。また、ハロウィーンの仮装をして地域の商店などを訪ねるときは、事前にスタッフが商店に当日お菓子を渡してもらうように話をしておきます。このような活動は地域の協力があってできるもので、地域全体で子どもたちの成長を支えてい

ると言えるでしょう。

そして、こうした活動を続けることで、隣近所の顔が見えにくくなった現在でも、大人たちの間につながりが生まれています。スタッフ同士が知り合い、さらにその知人や友人を通じて次第に地域へと広がることで、地域コミュニケーションの活性化や地域防犯への役割も果たしてくれます。

一方で、課題もあります。教室に協力するスタッフの発掘と後継者の育成です。文部科学省の「地域の教育力に関する実態調査」によると、「保護者の地域に対する期待は大きいが、自身自身は地域に対してあまり関わることできていない」との報告があります。このようなことから、どのようにすれば地域の活動に関わってもらえるのか考えていかなければなりません。

行政主導から 地域主導へ

学校の協力の下、地域住民や保護者

「放課後子ども教室」

成田市運営委員会

市では、行政関係者・学校関係者・PTA代表者・地域住民代表者などで組織される「放課後子ども教室」成田市運営委員会を設置しています。

運営委員会では、放課後子ども教室の事業計画、安全管理方法、実施後の検証・評価などが話し合われます。年6回開かれ、会議のほか各教室の視察も行われ、実際に活動を見て良い点や改善点などが議論されます。

また、運営委員会に属してはいませんが、より良い教室の運営のため、会議や視察に各教室のコーディネーターも参加しています。

この機会は、コーディネーター同士の意見交換や情報交換の場にもなっています。苦労していることやこれから取り組もうとしていることを相談したり、講師として協力してくれる人材の情報共有をしたりして、今後の各教室の運営に役立てます。



9月に行われた視察の様子



地域が体験活動の場をつくる



現代の大人の役割

八生っ子クラブ(八生小学校)
コーディネーター

湯浅 寛さん



地域のコミュニケーションの場

こまの森クラブ(遠山小学校)
教育活動サポーター

神崎 智子さん

子どもたちの遊びが変化し、ごく少数の固定化された人間と家の中で遊ぶ傾向が強くなっていると思います。大人には、子どもたちが思い切り体を動かしたり、自由に遊んだりできる場を作る役割があると思います。

八生っ子クラブは本年度から設立されました。わたしたち大人も何か特別なことをやらなければという意識を持つと続かなくなってしまう。難しく考えずにスタッフと協力して、子どもたちが楽しいと思えることをやろうと活動の内容を企画しています。

自分も童心に戻ったように子どもたちと一緒に楽しく活動しています。わたしは子どもたちの安全を見守る役割ですが、上級生が自主的に下級生の面倒を見てくれるので大変助かっています。

この教室は、子どもや大人、高齢者が交流できる「地域のコミュニケーションの場」であると思います。わたし自身もほかの学年の保護者や、講師になってもらった地域住民と知り合うことができました。放課後子ども教室の取り組みがもっと広がってほしいと思います。

Interview



- ①子どもの受け付けをするスタッフ
- ②紙飛行機が飛ぶ原理を解説する講師の沖野さん
- ③教室終了後、児童ホームへ送り届ける

で放課後子ども教室を運営する基盤ができてきました。

この教室を継続していくためには、教室の便りなどで家庭へ活動内容を情報提供することや、子どもたちの様子について学校と連絡を密にして、多くの目で見守ることなど、家庭・学校と連携を続けていく必要があります。また、この教室を通して子どもと大人が共に元気になり、地域の交流の場として、深く地域に根付かせていくことも大切です。

市では、新たな小学校区での開設だけでなく、立ち上げた後も教室の運営スタッフと連携し、内容の充実を図っていきます。

そして、より良い運営体制や目指すべき方向性を検討し、子どもたちが安全で有意義に過ごせる居場所づくりを行政主導ではなく地域主導で進めていけるような体制を整えていきます。

教室の実施小学校区・運営スタッフの募集

市では、放課後子ども教室を実施する小学校区を募集しています。

また、各教室では、子どもたちの安心・安全な活動を支える運営スタッフを募集しています。

放課後子ども教室を実施するためには、地域の人々の協力が必要です。さまざまな人と接することは、子どもたちの豊かな心を育むためにも大切なことです。運営スタッフに資格などはありません。地域で子どもたちを育てる環境づくりにご協力ください。

放課後子ども教室の活動に興味のある人は生涯学習課(☎20-1583)へ問い合わせてください。

子どもたちの人生の糧にしてほしい



本年度最初の教室で子どもたちに自己紹介

昨

年の10月から豊住小学校「こめっ子クラブ」の運営スタッフとして参加しています。わたしは、順天堂大学で教員を目指す人が子どもにも運動指導をするサークル「コーディネーション運動同好会」に所属しています。こめっ子クラブの設立当初からコーディネーション運動同好会は運営に携わっていて、毎年先輩から後輩へ引き継がれるのが恒例になっています。放課後子ども教室の活動は平日なので、大学の授業が比較的少なくなる3年生から参加します。本年度は8人の順大生が活動に参加しています。わたしは子どものころには、放課後子ども教室のような場はなかったので、「こめっ子クラブ」の子どもたちがうらやましくも思います。

わたしたちが教えているのは、遊びを通して楽しく運動することです。「しゃぼん玉で遊ぼう」や「ひょうたんの絵付け」などでは運営のサポートをし、「順大生と遊ぼう」や「フリータイム」のときは教育活動推進員としてわたしたちが先頭に立って活動しま

す。ドッジボールや鬼ごっこといった一般的な遊びのほか、みんなで手をつなぎ輪になってぐるぐる回ったり、5人1組になって鬼ごっこをしたりする変わった遊びもします。運動が好きじゃないと言っていた子どもが楽しかったと喜んでくれるとうれしくなります。

遊び方の説明をするときに、高学年に合わせて話すと低学年から「分からない」、低学年に合わせて高学年から「長い」と言われ、子どもたちに説明することの難しさを感じながらも、子どもたちとの関わり方を学ぶことができて自分自身の勉強になっています。この教室で学び、体験したことが子どもたちの人生の中で少しでも役に立ってくれたらうれしいです。児童数の多い学校では運営が難しいなどの課題もあると思いますが、ほかの地区でもこの活動が広まると良いと思います。卒業まで残りわずかとなり、子どもたちと別れなければならぬのは寂しく思いますが、放課後子ども教室がこの先も続いていくために、次の代にきちんと引き継ぎたいと思います。

こめっ子クラブ(豊住小学校)
教育活動推進員

鈴木 奈々恵さん(順天堂大学4年生)

- ① 順大生は子どもたちの人気者
- ② 順大生もひょうたんの絵付けに挑戦
- ③ 子どもでも手加減しないぞ

特集の終わりに

放課後子ども教室は、異なる学年が一緒に学んだり体験したりすることで、子どもたちの行動力・積極性・思いやりの気持ちを育てるなど、さまざまなメリットがあります。

一方で、残念ながら高学年になるほど参加者が減る状況にあります。子どもたちが何を求めているのか、保護者が何を必要としているのか、そのニーズはさまざまで一筋縄で解決できるものではありません。

しかし、これからの時代を担う子どもたちの健全な成長のために、放課後対策に関する取り組みは必要不可欠です。

地域全体で子どもたちを温かく見守る放課後子ども教室が継続して行われていくこと、そしてほかの小学校区でも展開していくことに注目していきたいです。